

# 「学力向上シンプルプラン」(R6島根県学力調査結果より)

※校内確認(入力)シート

松江市立古江小学校

【平均正答率】 ※全国値:全国の受検集団(学校・自治体)が毎年同じ傾向を示すことを利用して推定した値

【平均正答率】		国語	算数
5年生	本校	71.1	66.5
	島根県	65.0	55.9
	全国値	71.9	62.2

【平均正答率】		国語	算数
6年生	本校	58.0	68.0
	島根県	62.9	63.7
	全国値	69.9	67.3

※未学習問題を登録した学校については、該当問題を除いた全国値が表示されます。

【偏差値】	国語		算数	
	R5	R6	R5	R6
第5学年		53.2		54.7
全国値		53.6		52.8

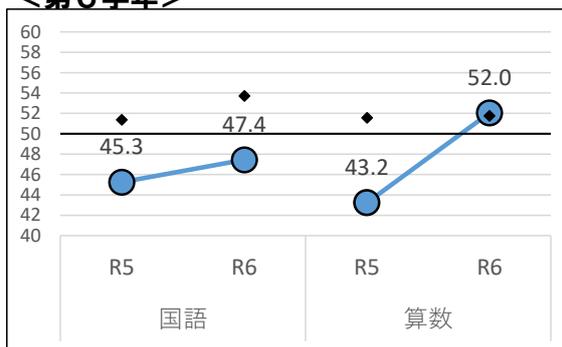
【偏差値】	国語		算数	
	R5	R6	R5	R6
第6学年	45.3	47.4	43.2	52.0
全国値	51.4	53.7	51.6	51.8

※【偏差値】  
島根県の平均正答率を「偏差値 50」としたときの換算値 (平均からどれくらい差があるかを表した数値)

## <第5学年>



## <第6学年>



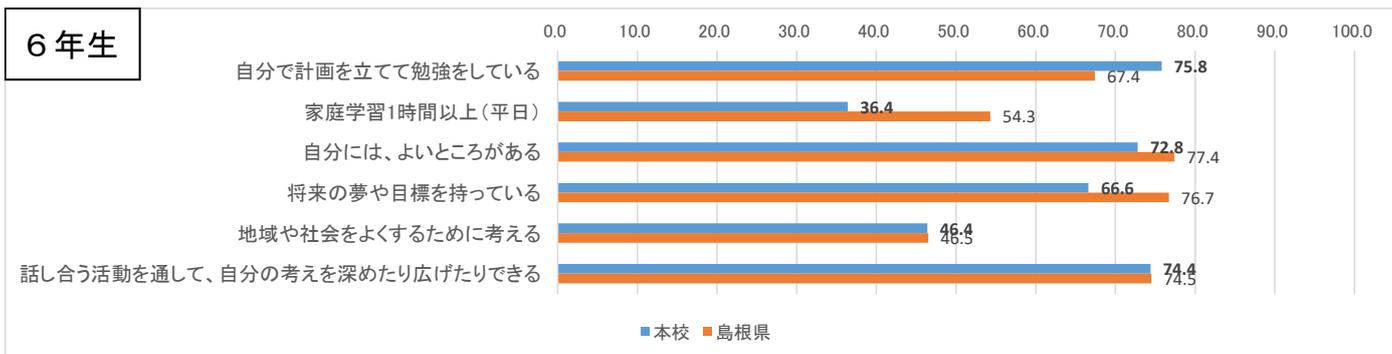
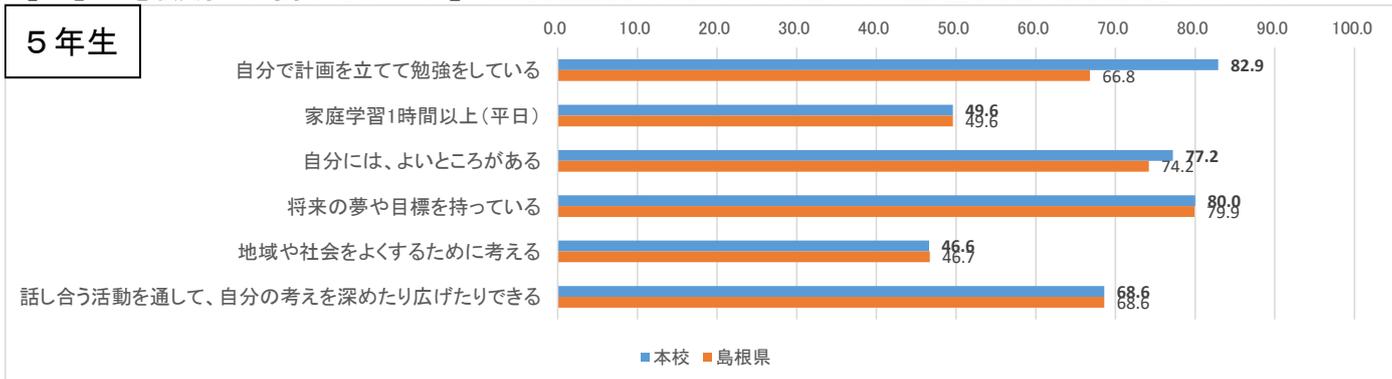
## 【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題 (○成果/●課題)

	5年生	6年生
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○該当学年で学習した漢字の読み書きが身に付いている。</li> <li>○話し合いの中で必要な情報を取捨選択して聞き取ることができる。</li> <li>●説明文の叙述を基に内容を読み取ることに課題がある。</li> <li>●文章を書く時のルールを理解して文章を書くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インタビュー内容から必要な情報を聞き取ることができる。</li> <li>○敬語について理解し、正しく使うことができる。</li> <li>●物語の登場人物の心情について描写を基に読み取ることに課題がある。</li> <li>●自分の考えを指定された長さの文章で書くことに課題がある。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的に目標値に達している。特に図形に関することについての理解がある。</li> <li>●記述式の問題に答えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的に目標値に達している。特に図形に関することについての理解がある。</li> <li>○基本的な分数のわり算・かけ算をすることができる。</li> <li>●文章問題から立式をすることに課題がある。</li> <li>●分数の大小関係を判断することに課題がある。</li> </ul>

## 【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題 (○成果/●課題)

	5年生	6年生
意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本を読んでいる。( +19.5%)</li> <li>○勉強に図書館を利用している。( +37.2%)</li> <li>○勉強に辞書を利用している。( +37.2%)</li> <li>○勉強にパソコンを利用している。( +48.6%)</li> <li>●テレビのニュースを見ている。( -12.4%)</li> <li>●家の手伝いをしている。( -6.7%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○勉強にパソコンを利用している。( +12.3%)</li> <li>○家では、勉強する場所を決めている。( +7.7%)</li> <li>○学校に出かける前に、忘れ物がないか確かめている。( +7.7%)</li> <li>●勉強に図書館を利用している。( -5.8%)</li> </ul>

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



～学力向上対策の3ステップ～

(1) 学力調査結果をもとにした今年度の学力向上の取組の振り返り (○：成果 ●：課題)

○昨年度の学力調査の結果から、算数の指導に重点をおいた。算数の基礎的・基本的な計算ができるように、5～6年生対象に既習事項の復習をする時間を設定し、全教職員で指導を行った。教員1人につき7人程度の少人数指導を行った。児童一人の課題に合わせた指導をすることができた。また、日々の学習で、自分の考えを式・言葉・図を使って答える問題を多く設定した。

●学力支援講師を中心に5・6年への学力向上の取組を行ったが、他の学年での取組ができていなかった。全校で取り組める手立てを考える。また、国語については特別な取組はしていないため、伸びが少なかった。

(2) 今後の学力向上に係る改善ポイント ※取組の焦点化

- ・各教科の見方・考え方を働かせる授業を行う。該当学年で付けさせる力を習得させること、そのために何ができて何ができないのかを、児童、教員、保護者が理解しやすくする。
- ・国語に重点をおき、語彙の獲得や読書指導を中心とした学力向上の取組を行う。

(3) 今後の学力向上に係る具体的な取組 ※取組の具体化

・勉強が得意な人が校内で認められる場を設定する。毎月、算数、国語のテストを全校で行う。成績優秀者や成長率が高い児童を全校の前で表彰する。

・どの教科のどの単元で思考力・判断力・表現力を付けるのが効果的か教材研究を行い、重点的に取り組む授業を学年部で共有していく。

【国語】

・文書を書く時間を多く設定する。(教科書の文章(表現)を真似する。・視写の時間をとる。)

・読書。読む本に偏りがないように物語文に触れさせる。

・文章を書く形式を身に付けるようにする。

【R6学力調査受検者数】

5年生 36 名

6年生 37 名

(欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)